

第2回 諫早湾干拓調整池水質検討委員会 議事概要

平成21年12月11日
九州農政局

第2回諫早湾干拓調整池水質検討委員会では、干拓地等の現状、水質保全対策等の実施状況、及び調査方針について報告し、これらに対し委員から質疑及び専門的・技術的観点からの指導・助言があった。

これらの概要は以下のとおり。

1. 諫早湾干拓地等の現状について

(1) 諫早湾干拓地での営農状況

諫早湾干拓地における、平成20・21年度の営農状況、及び環境保全型農業の取組状況について報告。

(2) 調整池の水質動向の概要

調整池の水質に係る、COD、T-N、及びT-Pの最近の動向と経年的変化について報告。

《これに対し、以下の指導・助言等があった。》

- ・水質保全対策の進捗には対策により差があり、調整池の水質は全体として改善傾向にあるものの、大きな変化は見られないのが現状である。
- ・新干拓地の生産物について、直売所での販売を伸ばしてはどうか。

2. 平成20・21年度の調整池水質保全対策等の実施状況について

調整池内対策、干陸地対策、新干拓地対策、生活排水対策、水田対策、及び畑地対策等の実施・進捗状況及び検証調査等について説明。

《これに対し、以下の指導・助言等があった。》

- ・ヨシはまだ密植状態にないので、巻き上げに対する減衰効果は見られない。今後、モデルで効果を検証すること。
- ・ヨシの進出促進工によりヨシが拡大しており、好ましい状況である。植物の生長には時間がかかるものであるが、今後期待できる。
- ・高度処理型合併浄化槽については、生活排水対策の重点地域に指定されており、普及できる体制を確立して推進してもらいたい。
- ・これからの対策は雑排水の対策が重要であり、これをターゲットとすること。
- ・干陸地のヨシ原に飼料作物を作付けするとあるが、ヨシなどが出芽する時期に全て刈り取ると次の芽も刈り取ることになるので、刈り取りの時期に注意すること。
- ・畑地調査は、できれば降雨時に時系列サンプリングできる体制が必要である。
- ・ほ場調査は個々の特性があり、数回の調査で普遍的な値を得ることは難しいので、全国的な研究事例をレビューして一般的な傾向を把握すること。

- ・対策の効果を見極め、PDCAサイクルなどを念頭において対策を進めること。

3 . 平成 2 2 年度の調査方針について

調整池水質動向把握のための調査、及び水質保全対策検証のための調査について説明。

《これに対し、以下の指導・助言等があった。》

- ・流域では施肥改善対策、新干拓地については上水場発生土によるリンの吸着が負荷削減対策としては重要。
- ・諫早市、雲仙市などで浄化槽の設置予定を調べ、高度処理型と従来型の排水水質の比較について検討すること。
- ・全国の湖沼の中で諫早湾干拓調整池がどの位置にあるのかを対策のレベルについても併せて整理すること。
- ・調整池の内部生産は滞留時間が関係している。
- ・今後の調査については、調査方法や取りまとめ等、各専門分野の委員に個別に指導を受け実施すること。